

2026年8月5日 帝京大学八王子キャンパス S521教室

「食」は「人生」を物語るものです。食には、その土地や人々が育んできた豊かな食文化が息づき、おいしいものを味わう喜びや幸せがあります。一方で、病気によって食生活が変化し、制限や不安を抱える人も少なくありません。言葉にしづらい「食の語り」を紡ぐことで、当事者たちはどんな「生きざま」を語ろうとするのでしょうか。緑の広がる八王子キャンパスで、皆さんと一緒に「食の語り」に耳を傾けてみませんか？

時間 内容

9:00-9:20

受付

主催:先端総合研究機構 チーム研究

9:20-9:25

開会の辞 帝京大学 宇多浩

「食と比較文化」チーム

9:25-9:30

サマーセミナーについて 帝京大学 後藤玲子

「ヒューマニティの哲学」チーム

司会 帝京大学 渡辺浩平

「声とケイパビリティ」チーム

Session 1

病めるときも、健やかなるときも
——「健康と病いの語り」データベースに基づく学際的ケイパビリティ研究

9:30-9:45

帝京大学 酒井美和
「クローン病の診断障壁における男女比較」

9:45-10:00

帝京大学 河北祐紀・後藤玲子
「『慢性の痛み』がまなざす福祉と医療」

10:00-10:15

帝京大学 蔡薰婕
「がん患者の食にみるジェンダー差と経験の意味づけ」

10:15-10:25

帝京大学 後藤玲子

10:25-10:55

まとめ（10分）・討論（30分）

10:55-11:05

休憩

Session 2

人権から考える持続可能な社会の共創

11:05-11:45

帝京大学 西向堅香子
「在日アフリカンの声から考える共生社会：「在日アフリカン」ってどんな人？」

帝京大学 加藤 恵美
「帝京大学博物館展示に向けた授業実践：移民と「共に生きてきた人」ってどんな人？」

11:45-13:30

昼休み（1時間）

Session 3

食の比較文化

13:30-14:00

帝京科学大学 閻淑珍
「虚と食——道教養生思想における小食・空腹・霊性・身体変容」

14:00-14:30

帝京大学 戸川律子
「食べ方の文化と持続可能な未来の選択ー牡蠣の日仏比較」

14:30-15:30

東北大学 佐藤雪野
「チェコの食文化ーことばと歴史の示すものー」

15:30-16:00

コーヒーブレイク（1時間）

16:00-17:00

総合討論（1時間）
東北大学 佐藤雪野、帝京大学 西向堅香子
帝京大学 後藤玲子、帝京大学 戸川律子

お申込みはQRコードまたはURLよりお願いいたします。 <https://forms.gle/kcDKex7nUtKcp6uBA>
【申込み締め切り】:8月3日 23:59

出入り自由。

会場の隣に、用意しているcalm down room(S520教室)も自由にご利用ください。



佐藤 雪野

東北大学GSICSフェロー・文学研究科等非常勤講師、東洋大学社会学部・宮城学院女子大学学芸学部非常勤講師(2026年3月まで東北大学大学院国際文化研究科准教授)

専門は、中欧地域研究、チェコスロヴァキア史、マイノリティ研究。

主要論文・著書

「チェコ・ウクライナ関係に関する一考察—ウクライナ戦争からの避難民に注目して—」『ヨーロッパ研究』17(2023)pp.77-88(単著論文)

「チェコ共和国における外国人住民の現状と難民問題」『国際文化研究科論集』29(2021) pp. 87-94

「チェコとスロヴァキアの国境—中欧における共生の可能性—」『思想』1056(2012) pp.92-106

『チェコを知るための60章』(明石書店) 2024年(共著)

『比較連邦史研究』(多賀出版) 2010年(共著)

「チェコの食文化—ことばと歴史の示すもの—」

中欧のチェコの人々は食べたり飲んだりすることが好きです。社会主義体制下では、その特性があまり発揮されていませんでしたが、現在では知られざるグルマンの国といえるかもしれません。今回は、チェコの行事と食、食べ物の名称とブラックユーモア、食と作られた伝統の3つのポイントについて、チェコの食文化についてお話しする予定です。

会場アクセス

出発駅	経由駅	利用交通機関	キャンパスまで
新宿駅	聖蹟桜ヶ丘駅	京王線→京王バス	約43分
新宿駅	高幡不動駅	京王線→京王バス	約42分
調布駅	多摩センター駅	京王相模原線→京王バス	約26分
新百合ヶ丘駅	多摩センター駅	小田急多摩線→京王バス	約26分
立川南駅	大塚・帝京大学駅	多摩モノレール→徒歩	約34分